

「ユニフォーム基礎研究助成」助成決定者・テーマ・概要(H9年～)

| 回数 | 年度 | テーマ | 研究概要 |
|----|-------|---|---|
| 1 | H9年度 | 生徒の身体発達から見た学校制服のゆとり量 | 1) 一人一人の健康診断記録に記載された身長、胸囲、座高、体重を収集し、下体高(身長―座高)を計算し、一人につき5項目のデータベースを作成。 2) 一人一人のデータについて、各学年間の成長量や思春期の成長のピーク年齢を算出し、二次データベースを作成。 3) 二次データベースを用いて平均値や分布の状況、相関関係などの検討から、最適なサイズ展開やゆとり量を求める。 |
| 2 | H10年度 | 中国における制服に対する意識とその背景に関する研究 | 調査項目により両国の制服の着用実態及び制服に対する意識・考え方を調査し、その相違は両国の社会的背景に影響されていることを分析し、両国の社会的背景の変化に応じる制服の着用が今後どのように変化するかを予測する。 |
| | | 感染予防と被験者のリラックスの見地から見た内視鏡術衣についての研究 | 色素(インジゴカルミン、インドシアニングリーン、ルゴールなど)を用いて内視鏡検査時に発生する汚染を術衣の部位別、定量的に評価する。実際に使い捨て方式と再利用方式を使ってみて得失を評価する。被験者に術衣についてのアンケートを行う。 |
| 3 | H11年度 | 施設介護や在宅介護に携わる介護者のためのユニフォーム提案 | 現状把握から介護担当者の意見も参考に、理想とする今後の介護現場を想定して研究を進める。調査でえられたデータに基づいて、被介護者や施設介護や在宅介護に携わる介護者の両者にとってより望ましいユニフォームを提案する。また、介護の理想・理念を踏まえた若年層のユニフォームのみならず、各年齢層に対して介護のためのユニフォームを安全性、機能性、審美性、識別性を考えたデザイン提案をする。 |
| 4 | H12年度 | ユニフォームの着用・非着用の実態調査に基づく、家庭的で機能的なケアユニフォームに関する研究 | 社会福祉協会との協力を仰ぎ、 1)兵庫県あるいは京都府を対象として、アンケートによりユニフォームの着用実態を把握する。次いで、アンケートから抽出した事例をもとに、ユニフォーム着用施設及び非着用施設をそれぞれ10箇所選定し、実際に施設を訪問調査し、 2)どのようなユニフォームが着用されているのか、また、着用されていない場合、どのような服装が選ばれているのか、写真撮影とともに職員と利用者(高齢者)に対する詳細なインタビュー調査を行い、機能的かつ家庭的な高齢者ケア施設職員のユニフォームのあるべき方向を明らかにするため、それぞれのケースについて問題点と改善点の把握を行う。 |
| | | ユニフォームの環境への貢献度に関する研究 | まず繊維製品のリユース・リサイクル、ペットボトル再生品の使用状況、さらに、ユニフォームと私服との使用上における比較などについて調査し、それらを分類・整理する。 次に、ライフサイクルアセスメントの手法を用いて、環境負荷、環境への貢献度を定量化し、繊維製品中におけるユニフォームの環境への貢献に対する位置づけを明確にする。 それらの結果を踏まえて、今後の問題点、及びさらに貢献度を高める方法を提案する。 |
| 5 | H13年度 | リサイクル繊維から作られた布の性能に関する基礎的研究 | バージンとリサイクル繊維、すなわちペットボトルから再生されたポリエステル繊維、使用後の布から再生された綿・羊毛繊維それぞれから作成された織物・編物の試料を収集する。試料の力学的特性及び熱・水分移動特性を測定し、初期特性の性能及び風合い計算によりそれぞれの風合いを明らかにするとともに、洗濯後の耐久性を明らかにする。 |
| 6 | H14年度 | 低温プラズマにより製造された呼吸し悪臭を吸収する知能性布のユニフォームへの応用 | 1) プラズマ・グラフト重合表面処理された機能性布の製造方法、システムの改良を行い、ユニフォーム作成が可能な大量布製造システムを確立する。 2) 製造された布の脱臭効果及び水分吸着効果などの機能性の計測を行う。脱臭効果の測定では代表的なものであるアンモニア、アセトアルデヒド、NOxの吸着実験を行う。 3) 機能性布を用いたユニフォームを試作し、着心地などの性能を評価する。 |
| 7 | H15年度 | 高齢者の形態に合った動きやすい運動着の提案 | 1) 運動する際に着用する服についての調査: 中高齢者において一般服と運動着に対する考えを調査し、何を基準に一般服と運動着をとらえているかを把握する。 2) 柔軟性: 衣服の着脱時には、少なくとも肩関節を代表とする関節や筋肉などの柔軟性を必要とする。このように柔軟性は、高齢者の動きに合った運動着を考える際に有効な指標となると考えられる。 3) 体型認識: 高齢者が自分の体型をどのように認識しているかを調査し、それが運動着を選ぶ時に影響を与えているかどうかを探る。 4) 身体計測: 高齢者の形態特徴を把握し、高齢者の形態に合った運動着への応用可能性を探る。 |
| 8 | H16年度 | 該当なし | |
| 9 | H17年度 | バイオマスプラスチック製ユニフォームのリユースとケミカルリサイクルシステムの実現可能性調査 | バイオマスプラスチックは、生分解性に加え、ケミカルリサイクルにより容易に原料へ再生できる。イベント会場におけるバイオマスプラスチック製カップのリユースとケミカルリサイクルに取り組んでおり、ユニフォームへの応用が着想の発端である。ユニフォームに要求される性能をバイオマスプラスチックが満たし、なおかつケミカルリサイクル可能性であるか検証する。ユニフォームのリユース及びケミカルリサイクルのビジネスを、LCAの観点からも評価する。 |
| 10 | H18年度 | ソーシャルエンジニアリング(制服を悪用した知的犯罪手段)を用いた施設内部における犯罪に対抗できるセキュリティシステムの研究 | 最近、官公庁や企業の制服が外部に流出する事案が発生しており、制服を悪用した犯罪が懸念される。たとえば、内部事情に詳しい元従業員が、不正に入手した制服を着用して従業員になりすまし、言葉巧みに従業員を騙して施設の中核に侵入し、犯罪(重要な情報の窃取など)を実行することが考えられる。上記のような知的犯罪に対抗するために、制服の流出や盗難への対策を施すとともに、従業員が制服着用者と対面またはすれ違ったときに、制服着用者がニセモノの従業員か否かを瞬時に判定できるセキュリティシステムを開発する。 |
| | | 高齢者が求めるデザインの志向性に関する研究 | 高齢社会を迎えたわが国では、高齢者を対象とした日用品や福祉用具が数多く開発されている。中でも福祉用具は身体機能が低下した高齢者にとって常用品(ユニフォーム)とも言える存在である。しかし、福祉用具のデザインは、若年者・壮年者が考える高齢者像を反映したものが多く、高齢者自身が考えるイメージよりも高齢に見せしてしまう場合がある。そのため、少しでも若く見せたい高齢者は福祉用具すらも使用せず、不健全な生活を送っている。そこで、本研究では、高齢者が求めるデザインの志向性について明らかにすることを目的とする。 |
| 11 | H19年度 | 該当なし | |
| 12 | H20年度 | 制服着用者を認証する方法とその応用に関する研究 | 不正に入手、あるいは模造した事業所の制服を着用して従業員になりすまし、金品などを詐取するという事案は、古今・洋の東西を問わず発生している。我々は、このような犯罪の未然防止を図ること(特に、市民が該当犯罪の犠牲になることを防ぐこと)を研究の目的としており、電気電子工学、情報工学、医療工学などの専門家からなるチームを結成し、学際的に研究を実施している。2008年10月27日現在、我々以外にこのような研究を実施している団体は世界的にないことが分かっている。このため、本研究には新規性が十分にあるといえる。 |
| 13 | H21年度 | 該当なし | |
| 14 | H22年度 | 義足と身体の一様感を創出する走行用ウェアのデザイン | 義足を使用した走行に最適なウェアの研究を行う。身体と義足を繋ぐウェア構造により、現在多くのトラブルが起きている切断箇所とソケットの接続を強固な物とする。また、ソケットの外観は切断箇所の歪な形状のため、切断による傷跡を想起させ、心理的負担を見る人に与える可能性がある。ウェアにより身体と義足の視覚的一体感を創出することにより、競技に挑む選手の心理的安定を図る。本研究では、身体と義足の機能性、感覚的一体感という義足走行用ウェア特有の問題点に着目し、選手が真に求めるウェアをデザインする。 |
| 15 | H23年度 | 該当なし | |
| 16 | H24年度 | ユニフォームの視覚・心理的対外効果の調査・研究 | ユニフォームは組織のイメージを発信する重要な要素である(対外効果)と同時に、着用者に組織の統一感を意識させる手軽なツール(対内効果)でもある。このようなユニフォームの対外効果および対内効果に関する研究はこれまでに蓄積があるものの、ユニフォームがもたらす心理効果は時代とともに急速に変化する。本申請研究では、ユニフォームがもたらす対外効果と対内効果について、色をキーワードに認知科学的研究を行い、最新の知見を得ることを目的とする。 |
| 17 | H25年度 | 該当なし | |
| 18 | H26年度 | 該当なし | |
| 19 | H27年度 | 災害救護に携わる従事者用ユニフォームの機能・安全性と要救助側からの視点の研究 | 災害救護側の安全性、機能性、快適性をユニフォームにおいて研究構築しバック類等を含めたシステムユニフォームを研究する。又、視覚的に優れたものを考察し、災害救護に対する使命感とプライドを高める高機能ユニフォームのあり方も含めて研究開発し、要救助者側からの視点を研究し安心・信頼等の視覚的な安堵感を被災地等で与えられるユニフォームを両立させる。 |